

<目次>

- IFLA
  1. 第84回 IFLA 年次大会報告 護得久えみ子
  2. マレーシアの図書館を見学して（クアラルンプール、マラッカ） 浅見佳子
  3. 絵本で知る世界の国々ーIFLA からの贈りもの
- 図書館訪問記3 <日本の図書館は今> 川上博幸

\*\*\*\*\*

■ IFLA

1. 第84回 IFLA 年次大会報告

児童青少年委員会委員 護得久えみ子

第84回 IFLA（国際図書館連盟）世界情報会議は、2018年8月24日から30日まで、マレーシア・クアラルンプールで開催された。

○サテライトミーティング

本大会に先立ち、児童・ヤングアダルト分科会は、「特別なニーズのある人々に対する図書館サービス分科会」と共催で、サテライトミーティングを行った（8月23日・於シンガポール国立図書館）。

Inclusive library services for children and young adults（児童・ヤングアダルトのための、包括的な図書館サービス）をテーマに、日本のNPO 法人支援技術開発機構副理事長の河村宏氏の基調報告に続き、アメリカ、シンガポール、ロシア、ケニア等の図書館での障害のある子どもたちへのサービスの事例が報告されたほか、日本からは、デイジー図書の作成・普及を行う「調布デイジー」での活動を、主宰者の牧野綾氏が報告した。

○児童・ヤングアダルト図書館分科会の活動

世界情報会議の期間中、児童・ヤングアダルト図書館分科会の常任委員会は2回開催された。日本からは、中島尚子委員（国立国会図書館）と、護得久えみ子（日本図書館協会児童青少年委員会）が出席し、依田和子氏（日本図書館協会児童青少年委員会）他1名がオブザーバーとして参加した。現在の委員会の主な活動は以下の通り。

\*絵本で世界を知ろうプロジェクト（The World Through Picture Books）：各国の図書館員に、それぞれ10冊ずつ、薦めたい自国の絵本を選んでもらう取り組み。収集した絵本のセットは日本とフランスに寄贈され、展

示用に貸し出されている。2018年夏、国別ブックリスト改訂のための情報提供の呼びかけを各国に対して行うことが方針として決定された。刊行物の作成は企図せず、オンラインでのデータ収集・公開を中心に進めていく。

\***ベストプラクティス (Best Practice)** : 各国の児童・ヤングアダルトへの図書館での様々なイベントや取組などを短い動画にまとめ、YouTube で共有するプロジェクト。今後の継続の仕方、広報などをこれから再検討する。

\***姉妹図書館 (Sister Library)** : 図書館・図書館員が国を超えて「姉妹図書館」として結びつく橋渡しをする企画。参加館は、数字の上では増えているが、実際には活動が行われていないケースもある。このまま継続するか、検討が必要。

\***児童図書館サービスガイドライン (IFLA Guidelines for Library Services to Children aged 0-18)** : 2015年から改訂を開始、今大会会期中に IFLA 専門委員会により承認された。これまで作成した3種のガイドライン(乳幼児、児童、ヤングアダルト)を統合し、0歳から18歳までを対象とした図書館運営及びサービス全体について述べたもの。英語版は、IFLAの児童・ヤングアダルト図書館分科会のホームページ上で閲覧できる。今後、その他のIFLA公用語版(仏、独、ロシア、スペイン、中国、アラビア)が翻訳・公開される。日本語版は、日本図書館協会児童青少年委員会が2019年度刊行予定。

## 2. マレーシアの図書館を見学して (クアラルンプール、マラッカ)

児童青少年委員会委員 浅見佳子

大会は8月22日～29日の日程でしたが、私は27日から2日間のセッションと30日の図書館見学(マラッカ)に参加しました。ショッピングセンターの中の小さなコミュニティーライブラリー(PERPUSTAKAN KOMUNITI MINI-UTC KERAMAT MALL)、公共図書館の分館(PUSTAKA KL、RAJA TUN UDA LIBRARY SHAH ALAM SELANGOR、PUSTAKA MELAKA)、学校図書館(Tunk cunku kursiah kolej)、工業大学図書館(Ruan pidato university keknikal Malaysia Melaka)、国立図書館(PERPUSTAKAAN NEGARA MALAYSIA)、イスラム美術館内の児童図書館、国際交流基金日本文化センターを訪れることができました。

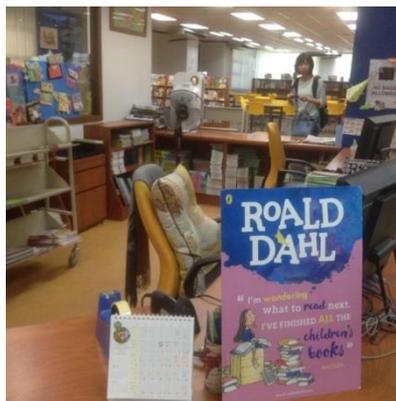
外国の図書館に行くと、知らない言語に囲まれる疎外感を感じることがあり、識字の問題を抱える人の気持ちがとてもよくわかるのですが、これらの図書館では、ポスター掲示一つとっても色や写真やピクトグラムが効果的に使われていて安心して館内を回ることができました。マレーシアは多民族国家なので、マレー語、タミール語、中国語等様々な言語の本がありますが、やはり英語の本が圧倒的に出版数も多いようです。公用語はマレー語で、英語も広く使われていますが、日常使っているのはそれぞれの民族の言葉だったりするので、本を読むのはなかなか大変なのかもしれません。民族間の平等、公平に国を挙げて取り組んでいることもあり、全ての住民が読書にアクセスできるように、誰でも図書館に来てください、という姿勢が感じられます。

自動車文庫でも漫画、テレビゲーム、ボードゲーム、レゴなどのおもちゃを積んでいって、工作教室などのアクティビティーができるのは普通だそうです。3DシアターやVR体験室、スポーツジムを備えている公共図書館も複数見ました。コーナーごとに企業の資金提供を受けているところも多いようです。

今回の大会は、ほぼペーパーレスで、専用アプリをダウンロードすると直前になっても細かい連絡を受け取ることができ便利でした。カラフルなヒジャブ姿で颯爽と仕事をする女性ライブラリアンを多く見かけました。マレーシア図書館員協会 LIBRARIANS ASSOCIATION OF MALAYSIA (PPM) の名前からも、図書館司書の仕事が社会的に認知されているように感じました。



マレー語の絵本



マレーシアの学校図書館

### 3. 絵本で世界を知ろうプロジェクト (The World Through Picture Books)

#### 概要

1. 2011年のIFLA 児童・ヤングアダルト分科会のミッドイヤーミーティングで、各国の常任委員が世界各国の絵本の出版状況を共有する新企画の提案に合意。
2. IFLA 児童・ヤングアダルト分科会からの呼びかけに各国の図書館が賛同し、事業概要決定。
3. 世界各国の出版社の協力で各国10冊の絵本が2セットずつ集まる。
4. 2012年フィンランドのIFLA大会でリストとともに展示。
5. 展示用貸出セットとして、1セットは日本の国立国会図書館国際子ども図書館、もう1セットはフランスの国立図書館に寄贈された。
6. 2013年から貸出が始まる。  
日本に寄贈されたセットは、展示会セット「絵本で知る世界の国々ーIFLA からのおくりもの」として、日本国内、アジア、オセアニア地域の図書館等に貸し出している。  
フランスに寄贈されたセットの貸出先は、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ。
7. 展示会セットは世界43の国と地域から集められた365冊の絵本と附属資料で構成されている。

\*貸出申込みについては国際子ども図書館にお問い合わせください。

国立国会図書館国際子ども図書館 資料情報課 (IFLA セット貸出担当)

03-3827-2053 (代表) ml-ifla@kodomo.go.jp

#### 国際子ども図書館所蔵展示会セットの貸出先 (2017年度～2019年度予定)

##### 2019年度

- Macao Library & Information Management Association (中国・マカオ)
- 親子読書地域文庫全国連絡会
- 多賀城市立図書館
- 福岡市博多南図書館

##### 2018年度

- 独立行政法人国際協力機構つくば国際センター図書情報室
- 長岡市立小国中学校

- 江戸川区立葛西図書館
- 大分県立図書館
- 小金井市民交流センター

#### 2017年度

- 京都府立久美浜高等学校 学校図書館
- 高知こどもの図書館
- 甲子園短期大学附属図書館
- 独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター図書資料室

### ■ 図書館訪問記3 <日本の図書館は今>

#### 滋賀県守山市立図書館移転開館 <2018年11月1日(木)>

児童青少年委員会委員 川上博幸

#### 【あらまし】

旧図書館が老朽化したため休館して、2016年11月から約2年余り、仮設図書館で活動していた滋賀県守山市立図書館が、2018年11月1日(木)に新築移転開館し、市民、関係者で大いに賑わった。当日には、建築にあたって木材を重視して設計した、隈研吾氏の講演があった。

小川のほとりにある歩道から外観すると、緩やかに傾斜した屋根がある木造2階建ての、横に長い大きな建物である。タテヨコ長方形型の単純な形ではなく、西側の駐車場から扇状に展開した感じに見える特異な形である。一度増築した旧図書館の1.5倍の広さ、4169㎡である。「広報もりやま」1251号(2018年11月1日)によると、目標蔵書冊数は38万冊で、全館の閲覧席は310席だとある。市長メッセージにも、「本の森」のほか、「つながる森」「こもれび広場」と、木を意識した言葉がある。人口8万2千人ほどの市で、立派な志の図書館とって差し支えない。まだ県下に図書館が少なかったころから、公立図書館を維持してきた伝統が息づいていると言えよう。

位置は、JR守山駅から琵琶湖方面、市役所の近くにあった旧図書館からは少し北寄りである。守山駅から2キロほど、徒歩約20分の所で、路線バスが通っている。

## 滋賀県守山市立図書館



東南面から見た外観



入口からカウンターへ

## 【児童サービス関係】

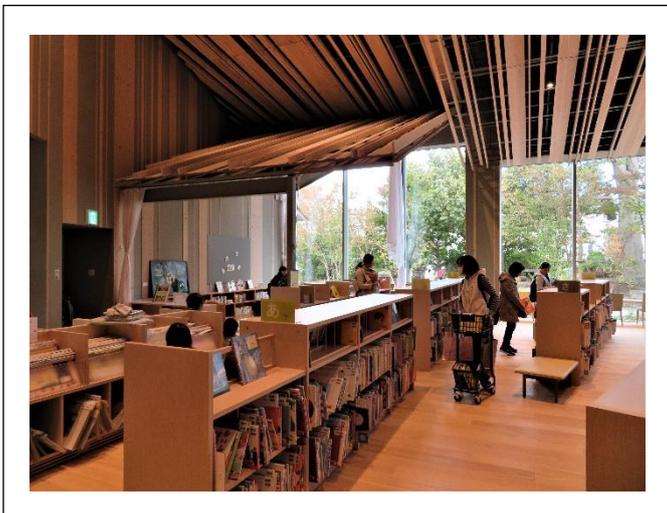
今回、児童サービスに関わることに絞って述べる。

入口は、小川沿いの北東角と市の児童施設がある中央部の西側と小川沿いの遊歩道から入る南東端、3か所ある。

駐車場がある西側から入ると、すぐ右に開架入口扉がある。扉を入るとすぐ左に、開放的なさほど広くはないおはなしスペースがある。ここだけ敷物の上で乳幼児が絵本を楽しめる。

入口扉から正面を見ると、南に緩やかにカーブしているが、向こう端までほぼ見通せる。車いすレールがあるので緩やかに曲がった長い通路に思える。その通路の左側が広く高い吹き抜け空間である。絵本スペースと

4類を主に主題図書が配架されている。おはなし室はその一角を担う形である。絵本スペースは約150㎡くらいであろうか。そのフロアには4類の本がある。ここを含めると吹き抜け空間は300㎡くらいある。この天井が高い吹き抜け空間は、窓が高く、外が並木道で小川の遊歩道からよく見える。内からも外からも絵になる風景である。窓下は2段低書架で絵本が配架されている。主題図書部分は3段書架で、天板がない4段目は面展用に板に溝が掘ってある。この部分は、通路方面から扇状に書架を置いている。窓側にいくほど裾広がりになっていて、窓に対して直角や平行に書架を配置するというものではない。



絵本空間の南側に壁で囲った扉のない部屋がある。間仕切られているので大小2室あるように見える。この部屋への入り口の壁には安野光雅氏の原画が10数点展示されていた。通路面はガラス張りで見える。この小さいボックス部分の前に1階の総合カウンターがあり、カウンターから部屋の中が見える。この部屋の通路側から2階へ上がる階段がある。階段の壁にも絵が展示してあった。階段をあがると、左にティーンズスペースがある。階段を上った所から、1階の入り口、絵本空間が見下ろせる。上から見ると実に図書館らしい光景である。

壁で囲った部屋2室の中置き書架が読物である。小さいほうの部屋には児童書の新書版の本があり、窓側の2段低書架は主題図書が左から右へ並び、次の部屋まで続いている。この2段低書架の上にも本の面展ができるように溝が掘ってあり、ずらっと面展されていた。窓際にテーブルスペースがあり、座って書き物をしたり、外

を眺めたりすることができる。

広がる空間より区切られた空間の方が、子どもには落ち着くと言えるのかどうか分からないが、ここをガラス窓にして囲ったのは、子どもの声がうるさいという苦情に配慮したからではないかと推察した。この部分は、窓際が、天板に面展可能な3段書架で、中置き書架は面展不可の4段である。天井も低い。

児童書の開架能力は5万冊程度ではないかと推察した。蔵書は全般に比較的良く揃っているが、開架能力に比して新しい本がやや少ないと感じた。旧図書館からの本も多く配架されていて、それが必ずしも読みつがれた作品というわけでもない。新しい図書館にそぐわない感じのものも見受けられた。図書館の雰囲気は、建物設備だけでなく、本の醸し出す雰囲気も大きい要素だと感じた。

配架についても、各社の新書版の扱いについていえば、これをまとめて別置する傾向が続いているが、特定の作品を探す場合、単行分と両方見ないといけないので、見逃す可能性もあるのではないかと推察した。一方、別置した方が、その形態の本を続けて読んでいくということがあるので、この方が良いという意見があって、一長一短があって、どちらともいえないが、大きな開架面積の図書館にあっては、日常的な利用では、検索機をあまり使わず本を探す子どもの利用者は、どちらの方が探す本に行き当たりやすいのか、同類の他の本に出会いやすいのか、それぞれの館がどれが自館に最も良いか問題意識を持って見守っていただきたい、と思った。

子どもが利用する空間は暗さを感じるどころはなく、快適に利用できる。幼児絵本のスペースでは、さっそうと幼児を連れてきた若いお母さん方で埋まってしまい、もう少し広くても良かったと感じた。この前には、バギーを置くスペースがあってこの点は他館を見て配慮されていると思えた。他の部分におけることではあるが、この部分では十分であったかどうかはわからない。

カウンター近くに、印字する読書通帳機があった。

利用が定着したころ、利用の多い曜日、時間帯にまた見てみたいと思った。

News Letter no.22 ニュース・レター

編集：依田和子、高橋樹一郎

発行者：島 弘

発行：日本図書館協会児童青少年委員会

日本図書館協会児童青少年委員会事務局 川下美佐子

Tel.03-3523-0816/Fax.03-3523-0841

E-mail:jidou@jla.or.jp